

2. 任意な乳幼児の歯科保健管理体系の対象者の定着性について その2

榊原 悠紀田郎

飯塚 喜一

中垣 晴男

石井 拓男

昨年、名古屋市東部の某デパートにおける定期的な歯科健康診査、指導、予防処置への来所者の定着性を初診時の年令別に考察したが、今回は同所で実施している指導の子供及び保護者への影響を、指導を受けた回数別に検討してみた。

方 法

昭和53年6月3.4.10.11日の4日間来所した子供に対し、口腔内検診（現在歯の状態、歯垢沈着度）とウ蝕活動性試験（カリオスタット）を実施。保護者には子供の昨日の行動日記を含むアンケート調査を行った。次に表-1に示すように来所者を分け、ほぼ人数も十分と思われる3才群と4+5才群を対象として指導回数の影響の生ずるとと思われる①歯垢の沈着、②歯口清掃の回数とやり方、③間食の回数と砂糖量、④母親の子供の口腔内への認識度、⑤ウ蝕活動性試験について検討した。集計、分類にクロス集計機パスキー800Ⅱを使用した。

表-1

来所回数	年令群					計
	～1才	2才	3才	4+5才	6才～	
初 回 群	130人	104	46	32	18	330
2 回 群	31	77	53	60	28	244
3 + 4 回 群		74	84	101	31	290
5 + 6 回 群			27	94	37	158

結 果

1) 歯垢の沈着度 (B+Bの平均)

	3 才 (例)				4 + 5 才 (例)				
	0	歯面の1/3	歯面の2/3	2/3以上	0	歯面の1/3	歯面の2/3	2/3以上	
初 回	15.2%	54.3	23.9	6.5	初 回	15.6%	53.1	28.1	3.1
2 回	20.0	56.0	16.0	8.0	2 回	28.8	59.3	11.9	0.0
3+4回	26.2	47.6	19.0	7.1	3+4回	32.0	45.0	20.0	3.0
5+6回	37.0	44.4	11.1	7.4	5+6回	41.5	40.4	17.0	1.0

2) 歯口清掃の回数(1日当たり)

	3才 (%)					4+5才 (%)			
	0回	1回	2回	3回以上		0回	1回	2回	3回以上
初回	13.0%	30.4	47.8	8.7	初回	0.0	46.9	46.9	6.2
2回	10.0	54.0	34.0	2.0	2回	1.7	42.4	50.8	5.1
3+4回	8.3	50.0	36.9	4.8	3+4回	5.1	48.5	43.4	3.0
5+6回	3.7	40.7	48.1	7.4	5+6回	6.5	40.2	50.0	3.2

3) 歯口清掃のやり方

	3才 (%)				4+5才 (%)		
	子供が自分で	親が手つだう	親が磨く		子供が自分で	親が手つだう	親が磨く
初回	11.9%	23.8	64.3	初回	50.0	28.1	21.9
2回	12.8	10.6	76.6	2回	35.0	21.7	43.3
3+4回	18.2	11.7	70.1	3+4回	44.4	13.1	42.4
5+6回	11.5	53.8	34.6	5+6回	29.3	17.4	53.3

4) 間食の回数(1日当たり)

	3才 (%)						4+5才 (%)				
	0回	1回	2回	3回	4回以上		0回	1回	2回	3回	4回以上
初回	2.1	23.9	19.6	34.8	19.4	初回	0.0	3.1	25.0	28.1	18.7
2回	2.0	16.0	36.0	22.0	24.0	2回	1.7	32.8	29.3	29.3	6.9
3+4回	2.4	16.7	25.0	33.3	22.7	3+4回	3.0	26.3	30.3	23.2	12.1
5+6回	0.0	14.8	25.9	29.6	29.6	5+6回	2.2	27.5	37.4	22.0	11.0

5) 間食からの砂糖摂取量(1日当たり)

	3才 (%)					4+5才 (%)			
	~10g	11~20g	21~30g	31g~		~10g	11~20g	21~30g	31g~
初回	22.2	40.0	15.5	22.2	初回	31.3	46.9	12.6	9.4
2回	30.0	26.0	20.0	24.0	2回	48.1	29.6	5.6	16.6
3+4回	30.2	22.4	21.1	26.3	3+4回	39.6	28.6	20.9	11.0
5+6回	24.0	40.0	44.0	12.0	5+6回	38.3	30.2	16.3	15.1

6) 自分の子供のう蝕の有無を間違った母親の割合(子供にう蝕ありとっていて、診査の結果なかった。又はう蝕なしとっていて診査の結果あった)

	3才(%)	初	4+5才(%)
初回	11.6	初回	6.3
2回	24.0	2回	10.3
3+4回	15.5	3+4回	14.0
5+6回	23.1	5+6回	14.0

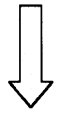
7) う蝕活動性試験(カリオスタット)

	3才				4+5才				
	-	+	++	+++	-	+	++	+++	
初回	34.9	46.5	16.3	2.3	初回	37.9	44.8	13.8	3.4
2回	32.0	56.0	8.0	4.0	2回	30.4	48.2	19.6	1.8
3+4回	27.2	58.0	12.3	2.5	3+4回	41.2	44.3	14.4	0.0
5+6回	38.5	46.2	15.4	0.0	5+6回	36.8	47.1	16.1	0.0

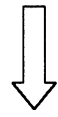
1) に示すように歯垢沈着度が平均0にランクされる子供の割合は3才、4+5才両群とも来所回数が増加するにつれて増していることが明らかである。2) 1日の歯口清掃回数では、3才群で1日に1度も歯口清掃をしない者の割合が来所回数が増加につれ減少している。又、3)の歯口清掃のやり方は、3才群には来所回数による差はあまりなく、大体85%位は親が手を出しているが、4+5才群となると、来所回数による差が明らかに認められ、回数が増すにつれ、子供が自分で清掃する割合が減少し、親が歯口清掃をしてやる割合が増加する傾向にあった。

その他7)う蝕活動性試験では来所回数の増加と共に+++の子供が減少する傾向が認められたが、2)の歯口清掃回数の4+5才群、4)間食回数、5)砂糖摂取量等には指導回数による改善はそれほど明らかに認められず、逆転しているものもあった。更に6)の子供のう蝕罹患状況を間違えて認識している母親の割合も来所回数には関係なく、かえって4+5才群では来所回数が増えるにつれ増加する傾向にあった。

以上の調査項目すべてにおいて3才群より4+5群は歯科的に良好な者の多いことを示している。このことから、指導回数よりも子供の増令的な変化の方が影響力が大きいことが推察出来る。またこのような指導の効果は歯を磨くという手技的な面ではある程度影響するが、間食という生活習慣や嗜好に関する面にはなかなか反応が出てこないことも推測出来る。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昨年,名古屋市東部の某デパートにおける定期的な歯科健康審査,指導,予防処置への来所者の定着性を初診時の年齢別に考察したが,今回は同所で実施している指導の子供及び保護者への影響を,指導を受けた回数別に検討してみた。